命をいただく　自然の恵みに感謝して

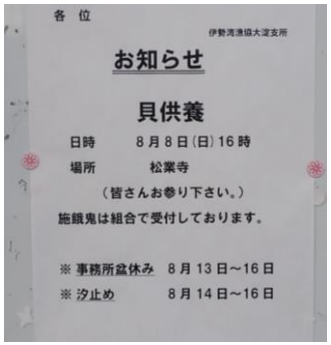
皆さん昨日の晩御飯は何を食べましたか。お米や、お魚・お肉、野菜などはありましたか。それぞれの食材は、きっと大切に育てられたり収穫された結果、皆さんの食卓に並んでいます。明和町では豊かな自然の恵みを活かし、農業や漁業が盛んに行われてきました。今回、ご紹介するお話は明和町の人々がいかに命をいただくことに感謝していたかを知れるものです。

大淀漁港の近くには地元で「竜宮さん」と呼ばれる大海神社（たいかい・おおみ）があります。祇園祭（ぎおんまつ）の時に、三世古地区では山車（だし）を舟にのせ、関係者の人々は神社に向けて一礼します。

この神社の入口には高さが３ｍ近い立派な常夜灯（じょうやとう）が建てられていて、柱の部分にはたくさんの文字が刻まれています。これを読むと、大正時代に大淀でたくさんのバカ貝が取れたことを記念し大正10年（1921）に建てたものであることが分かります。大淀は伊勢湾に面し、古くから漁業によって発展してきた町です。大淀の人々は海の神様に豊漁を感謝するとともに、生き物の命をいただくことに深く感謝していたことがわかります。私たちが生きていくにはなくてはならない食べ物。私たちも感謝の気持ちをもって大切にいただきたいですね。

キーワード：大淀、漁業、バカ貝、大海神社、貝供養

大正８年と９年で15万円もの収穫があったことが記されている。（＊現在の金額にすると約8500万円）



今も８月に松業寺で貝供養が行われている

＜常夜燈の碑文＞

【正面】
奉献　常夜燈　大淀村漁業組合

【側面】
馬阿貝巻記念　大正八九年
漁獲高金十五萬圓
同　大淀村漁業組合長　山中己之助　同総代会議員　宮下寅吉
同　出納　西山多三郎　西村金太郎
同　理事　中世古斉次郎　山中才蔵
同　監事　辻徳市　土屋又太郎
同　西村豊太郎　堀斉吉
後藤秀之助
西村五郎
浜口徳五郎
辻敬之祐
辻鉄太郎
魚問屋
西口[illegible]次
山中勇次

【背面】
大正十年一月建之